特集 英語を使う技能の育成

英語を「使う」ために

根岸雅史（東京外国語大学）

1. 学年を通した言語活動の配置と構成 ー学年ごとの目標の明確化ー

まずは，2006（平成18）年度版 *NEW CROWN* の言語活動の配置と構成について，全学年を通して見ていく。活動の中心は，1年では，「自分のことや自分の気持ちを説明すること」および「身の回りのできごとを説明すること」，2年では「事実を報告すること」および「物事についての判断をすること」，3年では「様々な考えや意見を述べること」となっている。これらは英語力の発達段階や中学生の興味を考慮して段階的に構成されたものである。

各課の後半に用意されている DO IT は場面と機能を結び付けたコミュニケーション活動のセクションであり，LISTEN / TALK / WRITE という活動から成る。ここでは，スペースの関係もあるので，LISTEN と WRITE の構成を見てみよう。まず，LISTEN は次のような具合である。

	目標	活動例
1年	初歩的な英語の情報を正しく聞き取る	「ALT や友だちの自己紹介」や「留守番電話のメッセージ」などの聞き取り
2年	初歩的な英語を，場面や状況に応じて適切に聞く	「ニュース放送」や「案内放送」などの聞き取り
3年	話し手の意向を理解したり，理解できない部分を推測で補ったりしながら聞く	「物語」や「インタビューのやり取り」などの聞き取り

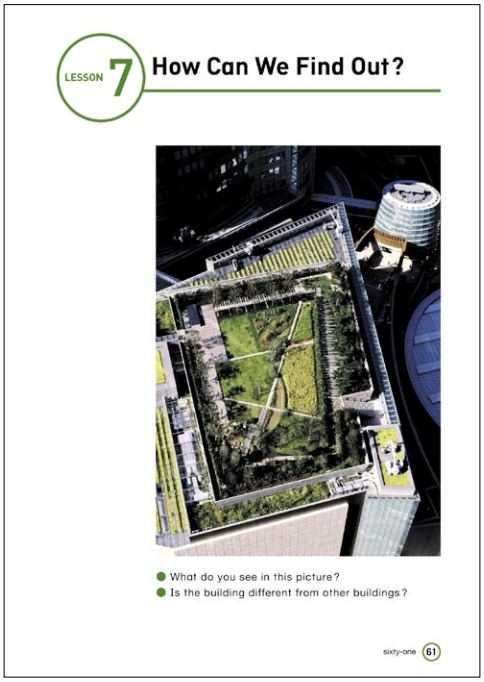
DO IT の WRITE は年間に2度ほどのやや大仕掛けなタスクとなっている。これも順に見ていくと，1年では，「自己紹介をしよう」，「カードを書こう」，2年では「将来の夢は日本語教師です」，「ホストファミリーへのEメール」，3年では「『扇子』を説明してみよう」，「一番の思い出は？」と展開している。また，このようなやや大掛かりなタスクもその中でステップを踏んでおり，STEP 1 は「モデル文を参考に，どのようなことを書くかを考える」段階，STEP 2 は「モデル文の下線部を自分のことにかえて書く」段階となっている。また，「選択的な学習」として TRY が用意されている。

このような段階的な構成は，いわゆる本文にも反映されている。たとえば，1年3課や7課の Show and Tell に始まった活動は，2年5課の Speech に引き継がれ，そして，3年5課の Presentation に発展している。また，内容的にも，調べ学習は，2年7課（How Can We Find Out?「ヒート・アイランドについて調べました」）から3年5課（Places to Go, Things to Do「あなたはどこへ行きたいですか？」）へと発展している。

2. レッスンの構成 ープレ活動からDO IT へー

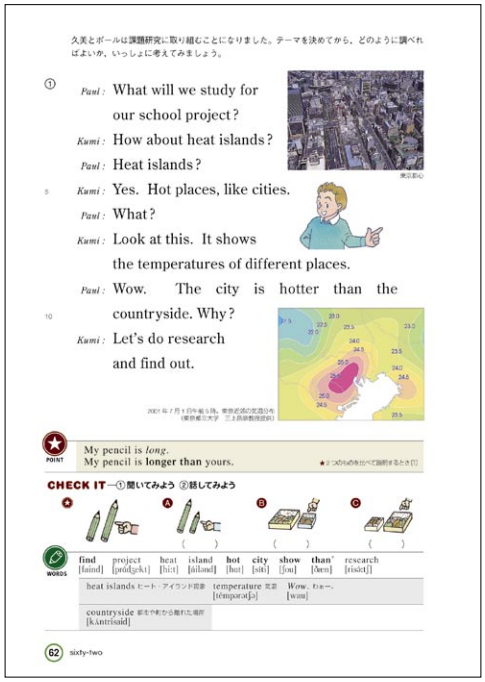
2-1. プレ活動

ここでは，標準的なレッスンの構成を説明する。まず，レッスンの本文に入る前には，プレ活動がある。これは，本文の内容に関連のある写真などを見せることで，いわゆるスキーマを活性化することになる。スキーマを活性化するとは，生徒があらかじめ持っている背景的知識を本文に入ったときに自然に利用できるように準備しておくことである。この


LESSON 7 How Can We Find Out?

● What do you see in this picture?
● Is the building different from other buildings?

sixty-one 61


久美とポールは課題研究に取り組むことになりました。テーマを決めてから，どのように調べればよいか，いっしょに考えてみましょう。

① Paul : What will we study for our school project?
Kumi : How about heat islands?
Paul : Heat islands?
Kumi : Yes. Hot places, like cities.
Paul : What?
Kumi : Look at this. It shows the temperatures of different places.
Paul : Wow. The city is hotter than the countryside. Why?
Kumi : Let's do research and find out.

POINT
My pencil is *long*.
My pencil is **longer than** yours.

CHECK IT —① 聞いてみよう ② 話してみよう

WORDS
find [faind] project [prádʒekt] heat [hiːt] island [áilənd] hot [hɑt] city [síti] show [ʃou] than* [ðæn] research [risə́ːtʃ]
heat islands ヒート・アイランド現象 temperature 気温 [témpərətʃə] Wow. わぁー。 [wau]
countryside 都市や町から離れた場所 [kʌ́ntrisaid]

62 sixty-two

基本的な役割がスキーマの活性化であるが，それ以外にも，これによりトピック関連語句の復習をしておくことにもなる。ここでの活動形態としては，教師による Oral Introduction や Oral Interaction が考えられるが，指導用の CD にも Oral Introduction が用意されている。なお，これらの活動は，写真や絵などがあることでかなりやりやすいはずである。このような準備を行ったあとで，本文に入ることになる。

ここでは，2 年 7 課の How Can We Find Out? のプレ活動を見てみよう。このレッスンの扉ページには上のような写真が掲載されている。その下には，次のような質問が投げかけられている。

・What do you see in this picture?

・Is the building different from other buildings?

授業では，このような質問を教師が生徒に直接投げかけてもいいし，CD のプレ活動部分の音声を聞かせてもいいだろう。録音されている音声は次のようなものである。

> Look at this picture. It is a beautiful park. Rice is growing in it. Trees are grown in it. Do you see something strange about the park? Yes. It is on a building. But, why is there a park on a building? Why are rice and trees growing on a building?

もちろん教師自身が問いかける場合は，これが内容への Oral Introduction や Oral Interaction となる。

このような活動を通して，生徒は自分も今までにこのような屋上を見たことがあることや，このような屋上は地球温暖化防止のための工夫のひとつであることなどを思い出すかもしれない。また，こうした具体的な知識や経験を持たない場合でも，このような光景を不思議に思ったりするだけでも，本文を読む準備は十分できていると考えられる。

2-2. CHECK IT

本文に入ったところには，各セクションのターゲットとなる文型が用意されている。このキー・センテンスは CHECK IT において利用され，その内容は星印のついた絵で示されている。CHECK IT の「① 聞いてみよう」では，まず英文を聞いて内容に合った絵を選ぶことになる。ここで聞き取る文は，新出文法事項を除きすべて既習のものである。このため，新出文法事項の意味を既習語と絵を手がかりに推測することができるようになっている。

こうして意味を確認したあとの「② 話してみよ

USE IT 7

世界の都市の気温について話そう

下の表は，世界のさまざまな都市の各月の平均気温を表したものです。

都市名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
東京（Tokyo）	5.8	6.1	8.9	14.4	18.7	21.8	25.4	27.1	23.5	18.2	13.0	8.4
ニューヨーク（New York）	0.3	1.5	5.6	11.2	16.9	21.9	25.0	24.3	20.2	14.2	8.6	3.2
シドニー（Sydney）	22.8	22.9	21.5	18.6	15.9	13.0	12.2	13.3	15.7	18.0	19.6	21.9
モスクワ（Moscow）	−7.5	−6.7	−1.4	6.4	12.8	17.1	18.4	16.5	10.8	5.0	−1.6	−5.5
カイロ（Cairo）	14.0	15.2	17.6	21.8	24.7	27.4	28.0	27.9	26.4	24.0	19.1	15.0
ソウル（Seoul）	−2.5	−0.3	5.4	12.2	17.5	22.0	25.0	25.5	20.9	14.5	7.0	0.3
ロンドン（London）	4.4	4.4	6.4	8.2	11.6	14.5	17.1	16.8	13.9	10.7	7.0	5.3

（1971 ～ 2000 年の平均気温　気象庁による）

1 2つの都市を比べてみよう

上の表から各都市の月ごとの平均気温を比較して，hot や cold などを使って言ってみよう。

例 Tokyo is hotter than London in August.

2 平均気温の高い都市は？

月ごとの各都市の平均気温を比較して，どの都市の平均気温が最も高いかを，例にならって言ってみよう。

例 Sydney is the hottest in January.

3 人気のある月はいつかな？

［1］各都市の平均気温を見て，その情報をもとに，何月が最も海外からの旅行者に人気があるか予想して言ってみよう。

例 I think May is the most popular month for visiting Tokyo.

［2］次に，旅行会社の案内を聞いて，自分の予想と合っているかチェックしてみよう。

都市名	自分の予想	実際に人気がある月	チェック欄
東京			
ニューヨーク			
シドニー			
ロンドン			

66 sixty-six

4 平均気温が同じくらいなのは？

月ごとの平均気温で，東京の平均気温がどの都市の平均気温と同じくらいかを，例にならって言ってみよう。

例 Seoul is about as hot as Tokyo in July.

LESSON 7

THINK ABOUT IT

久美とポールは，ヒート・アイランド現象についてどのように調べたか，書いてみよう。また，もしあなたがこの調査をするとしたらどんな調べ方をするか考えて書いてみよう。

1

2

自分：

SOUNDS

the は通常は弱く発音されます。次の各文の the に注意して，読んでみよう。

The city is hotter than the countryside.

The city is the hottest of the three.

The Internet is great.

sixty-seven 67

う」には，いわゆる文型練習が用意されている。ここでは，キー・センテンスをリピートしたあとで，入れかえる単語が cue として流れてくるので，その部分を入れかえることになる。ただし，この文型練習は従来の機械的なものとは異なり，絵があるために，文の意味を考えての発話練習となっている。したがって，この練習には，パターン・プラクティスに対して以前あったような「意味もわからずただ口を動かしているだけ」というような批判はあたらないのである。

近年ともすれば「通じればいい」というような授業を見かけることがある。しかし，基礎のないところで，応用練習ばかりしていても力は伸びていかないのである。ここでの練習は，野球で言えば，素振りやトス・バッティングにあたる。「型」を意識して，それが自然とできるようになるまで練習するのである。今後は，このような口頭練習で，基本文型の定着を図っていくことが重要である。

2-3. USE IT

こうして築いた基礎の上に，教科書本文のあとには USE IT での練習が用意されている。USE IT の活動は，すべて各セクションおよび CHECK IT に対応している。CHECK IT で言語形式（language form）の訓練を行うことにしたことで，USE IT ではより言語使用（language use）または意味に重点が置かれたタスクを作成することができ，その結果，その 2 つの役割が明確になった。USE IT では，文脈が用意されており，基本的には生徒が自分で話す内容を決定したり，必要な情報を聞き取ったりするようになっている。とりわけ，話すことにおいては，なるべく自己表現となるようなタスクが設定されている。さらに，対話型のタスクもここに多く用意されている。

引き続き 2 年 7 課の USE IT を見てみよう。この課の USE IT は，1 つの表をすべての活動に用いるようになっている点が，他のレッスンと異なるが，それ以外の基本的な作成の原則は同じである。

話す活動である 1 では，表を見ながら，生徒が自分で選んだ 2 都市の特定の月の平均気温を比較して，その内容を英語で言ってみることになっている。たとえば，表の中のシドニーとカイロの 1 月の平均気温を比べて，

Sydney is hotter than Cairo in January.

というように言うのである。ここでは，比較級を使うという枠はあるものの，意味のある文脈の中でそのタスクを行うことになる。また，聞くことを中心とした 3［2］では，情報を聞き取ってメモをとる

活動になっている。ここでは単に情報を聞き取るだけではなく,自分の予想とのマッチングを行うので,生徒は積極的に聞くことが期待される。スクリプトは次のようになっている。

Hello, everyone. Travel experts will tell us about some popular places to visit. We'll hear about Tokyo, New York, Sydney, and London.

Come to Tokyo. April is the most popular month for visiting Tokyo. It's sometimes cold in April. But you can enjoy looking at *sakura*, or cherry blossoms. They're beautiful.

New York is …. （以下略）

2-4. THINK ABOUT IT

USE IT のあとには，本文の内容を振り返る THINK ABOUT IT が用意されている。英語学習を単なる英語の知識や技能の習得に終わらせないためにも，本文のメッセージについて考える場として，ここは重要である。2 年 7 課では,「久美とポールは，ヒート・アイランド現象についてどのように調べたか，書いてみよう。また，もしあなたがこの調査をするとしたらどんな調べ方をするか考えて書いてみよう。」となっている。ここでは，生徒は単に内容を振り返るだけでなく,積極的に考えることになる。

2-5. DO IT

最後の DO IT では，内容的に本文とゆるやかな関連を持たせながら，特定の言語機能や表現に焦点をあてたタスクが用意されている。また，ここでは言語機能や表現は新しい学習事項であるが，それ以外は既習事項が用いられており，これまでに生徒が学んだ知識を統合して行う活動となっている。そのタスクは TALK / LISTEN / WRITE の 3 つがあるが，とりわけリスニングの活動を大幅に増強している。

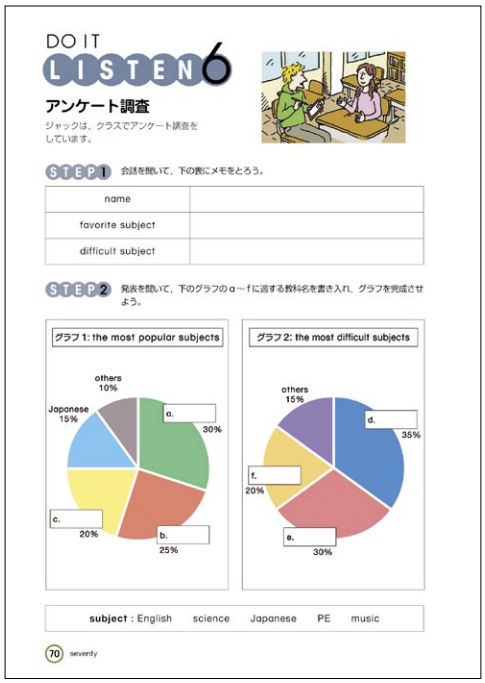
2 年 7 課に続く TALK 6 では，部屋が寒いので窓を閉めてもらうように依頼する表現とその答えを扱っている。

Ken: Will you close it?

Ratna: Sure. / I'm sorry. I can't. I'm busy now.

また，LISTEN 6 では，本文の内容である「調査」に絡め，アンケート調査について聞き取ることになっている。

2 年 DO IT – LISTEN 6


DO IT
LISTEN 6
アンケート調査
ジャックは，クラスでアンケート調査をしています。

STEP 1 会話を聞いて，下の表にメモをとろう。

name	
favorite subject	
difficult subject	

STEP 2 発表を聞いて，下のグラフの a～f に適する教科名を書き入れ，グラフを完成させよう。

subject : English science Japanese PE music

70 seventy

3. 縦糸と横糸

各レッスンは，目標とする言語材料や題材が確実に身につくような構成となっている。それは，決して単なる練習の羅列ではなく，有機的に結びついた積み上げになっているのである。これはいわば横糸であるが，縦糸にあたるのが，1 年から 3 年までの 3 年間を見通した構成である。文法を中心としたシラバスである中学校教科書の場合，一度出てきた言語材料がなかなか次に出てこないというケースが少なくないが，この教科書では，1 年ごとにさまざまな言語活動が積み上がるようになっている。こうして積み上がっていく中で，既習の言語材料を統合的に繰り返し使うように設計されている。縦糸と横糸でしっかりと編まれた英語の基礎力が *NEW CROWN* の提供する英語力と言えるだろう。